日本工業規格表示許可工場
JIS C 9711
No. 375001

EA620TA、EA620TB

手動油圧ポンプ HP-180N

取扱説明書

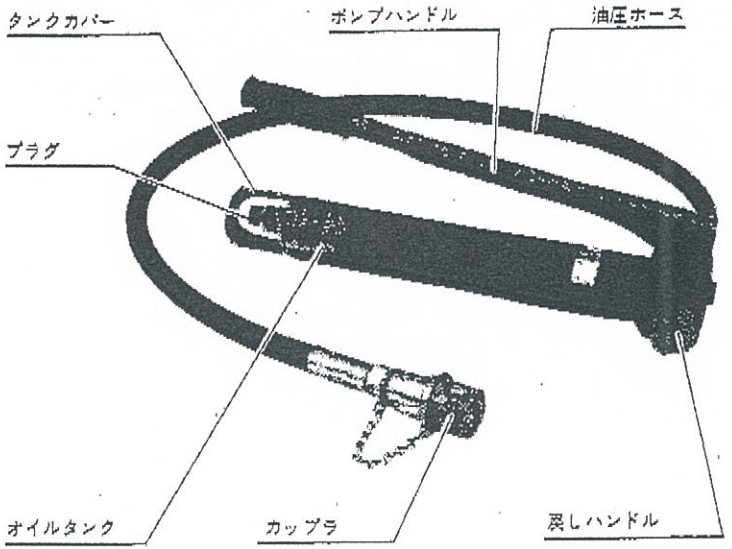
ポンプ

株式会社 泉精器製作所

このたびはFUJIの手動油圧ポンプＨＰ－180Ｎをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

この取扱説明書は油圧ポンプの取り扱い、注意事項などについて説明してありますので、ご使用前に是非ご一読下さい

１．各部の名称



２．仕　　様

公　称　圧　力	700kg f/cm²
ハンドル荷重	31.5kg
作　動　油	シエルテラスオイルT15
オイルタンク容量	203cc
油　圧　ホ　ー　ス	1 m
重　　量	2.9kg

3．使用方法

3.1 戻しハンドルを左(←DOWN−)にまわしたのち、油圧ホース先端の雄カップラをシリンダの雌カップラに確実に接続します。（図1）

3.2 戻しハンドルを右(−UP→)にいっぱいまわします。（図2）

3.3 シリング部の準備(穴あけ又は切断)ができましたら、ポンプハンドルを操作して作業を開始して下さい。

3.4 穴あけ又は切断が完了したらポンプハンドルの操作をやめ、戻しハンドルを左へまわします。作動油は、オイルタンクへ戻ります。（図3）

3.5 シリンダの作動油が全部オイルタンクへ戻ったのを確認してから、カップラを取り外して下さい。

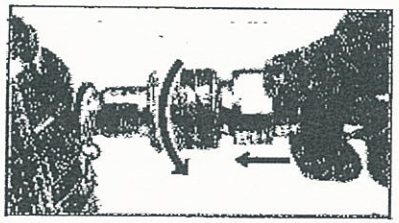


図1

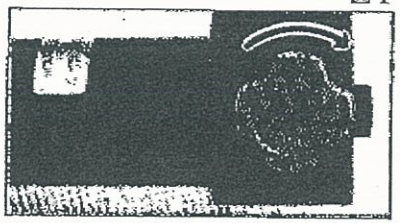


図2

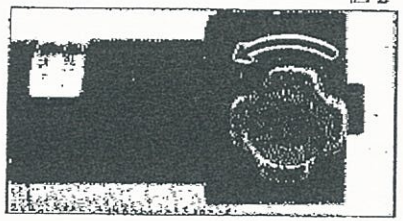


図3

4．使用上の注意事項

4.1 このポンプはSH−10パンチャー又はSP−20カッター等、穴あけと切断に使用するように設計されたポンプです。したがって端子やスリーブの圧着や圧縮には、圧力規制装置がついておりませんのでご使用にならないで下さい。
圧着や圧縮には、JISマーク付のポンプHP−700S(手動式)、13号S-I（足踏式)、又はR14E−F(電動式)をご使用下さい。

4.2 カップラの接続は確実に行なって下さい。不完全な状態で使用しますと、シリンダのラムが上昇したまま、下がらなくなる事があります。（図4）

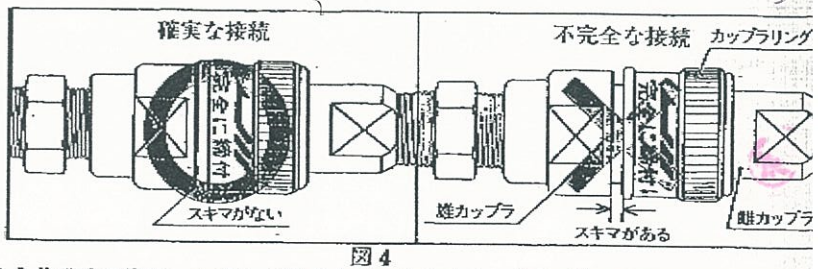


図4

4.3 作業する際は、シリング部を人のいる方向や、自分の方へ向けての使用はさけて下さい。（図5）

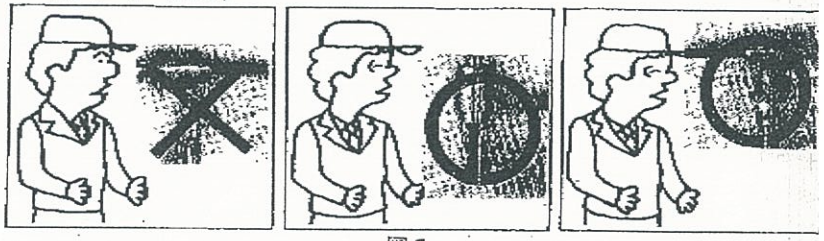


図5

4.4 油圧ホースは柔軟性のあるものを使用していますが、圧力のかかっている時、及び金具部分からの急激な曲げは行なわないで下さい。ホースの寿命が短かくなると同時にパンクする恐れがあります。

5．保守・点検

5.1 カップラの取り付け、取り外しをひんぱんに行ないますと、長い間には作動油が減少する事があります。このような時には次の要領で作動油を補給して下さい。

(1) タンクカバーの端を左にまわして外します。するとオイルタンクとプラグが露出します。（図6）

(2) ポンプを立てた状態でオイルタンクのギザを持ち、反対の指でプラグをまわしながら取り外します。プラグはねじではありませんので、左右どちらでもまわります。（図7）

図6

図7

(3) ポンプを立てたまま、オイルタンクへ給油をして下さい。この時、オイラー(油さし)を使用すると作動油もムダにならず、給油もらくに行なえます。(図8)

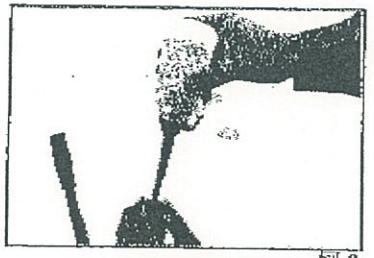


図8

(4) 口元までいっぱいに入れたら、プラグを入れずにポンプを立てたままで、ポンプハンドルを5～6回操作して下さい。この時、戻しハンドルは左(←DOWN−)にまわしておいて下さい。オイルタンクの中に空気が残っている場合はこの操作で空気抜きができます。(図9)

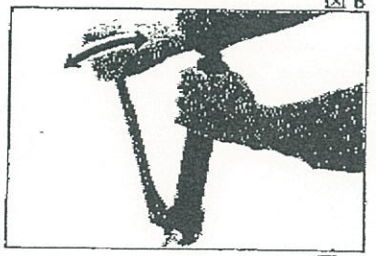


図9

(5) 空気が抜けると、補給した作動油のレベルが下がりますので、再びいっぱいになるまで補給をして下さい。この後、オイルタンクにプラグを静かに根本まで差し込めば補給が完了です。タンクカバーをもとの位置へねじ込んで下さい。

5.2 ポンプに使用する作動油は、シエルテラスオイルT15です。代理店へお申し付け下さい。

5.3 始業前に、ポンプハンドルの軸へ注油をして下さい。油が切れてカジレが出ますと、ポンプの寿命が短かくなります。(図10)

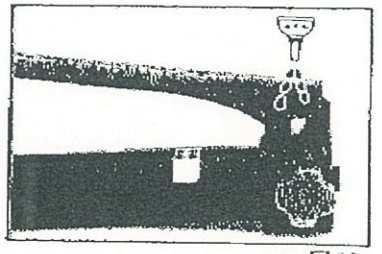


図10

5.4 作動油は1年に1回、全量を交換して下さい。約 200ccです。交換はオイルタンクの作動油を全部排出した後、5.1 と同じ要領で行なって下さい。

5.5 日常の保守・点検が十分であれば故障の生ずる事はありませんが、万一故障した場合はもよりの代理店または弊社営業所へお問い合わせ下さい。